

再生砕石の安定供給へ

城南島リサイクルセンター 都から施設認証取得

大成ロテック

大成ロテックの城南島リサイクルセンター（東京都大田区）は、東京都環境局・都環境公社らが推進する、再生砕石利用拡大支援制度に対応した再生砕石「東京ブランド」「粋な」エコ石」の施設認証を取得した。写真。

都内で発生するコンクリートがれき類は年間700～800万トで、リサイクル材再利用の受け皿は、主に道路業界が担ってきた。同社の東京青海合材工場（東京都江東区）と今回施設認証を受けた城南島リサイクルセンターは、年間約50万トのがれき類を中間処理（リサイクル）しており、都内へ多くのリサイクル材（路盤材・再生合材）を供給してきた。



今後、都内で老朽化したコンクリート構造物の更新が多く見込まれている。構造物解体と新設のスムーズなサイクルの実現には、より一層の再生砕石を利用

きる環境整備が欠かせないため、城南島リサイクルセンターの設備を整備し、東京都環境局・都環境公社らが推進する認定品の路盤材、グラベルコンパクション材、裏込め材を製造できるようにした。

認証取得証授与後、同センターの永盛達也工場長は「安心・安全な再生砕石を生産できる体制が、オリピック開催前に整った。再生砕石の利用拡大につながるものと確信している」と述べた。

認証取得に向け、センター設備機械を担当した安宅範貴氏は「同センタ

ーの再生砕石が、東京五輪整備に使用されると思うと胸が熱い」と述べている。

品質管理責任者の菱川慧係長は「コンクリート解体現場から再生砕石を現場に届けるまで、一貫したエコ石のトレーサビリティを確保する体制づくりが大変だったが、苦労が報われた」と語った。

都内工場を統括する宮本榮二部長は「エコ石を安定供給できる体制を整え、よりよい環境づくりを推進していく」と意気込みを語った。